「生徒が万引」と二七電話

西毛の小中学校に集中　スーパー店長装い

高崎市など西毛地区の小・中学校に先月初め、大手スーパーやデパートの店長を装って「生徒が万引きに来ている」と、学校側に来校を求める二七電話が相次いでいたことが三日までに明らかになった。連絡を受けた学校の半数は、日頃の教師への不信感などから「生徒を信じたい」と無視したが、残りの学校は「放っておけない」と校長や教頭が、夏休みの非行防止に神経をとがらせている時期にも重なり、「入念な対応を」と改めて教育委員会から指導を受けた学校もあった。

県教委生徒指導室によると、二七電話があったのは先月六日から九日。高崎市や富岡市、安中市、甘楽郡、碓氷郡、群馬郡の小・中学校十二校に相次いで連絡があり、このうち一件は高崎市に集中している。

九日に被害に遭った高崎市内の小学校の教頭によると、大手スーパーの店長名を騙る男が「お宅の六年生の生徒がフロアで万引きしていた。学校側に来校を求める」と電話をかけてきたという。

教頭が「名前と学年は」と聞くと、男は「名前は言えないが、六年生の男子だ」と答えたため、教頭は「名前を言わないと学校としては対応できない」と断ったが、男は「名前を言うと、その子が学校でいじめられる」などと繰り返すだけで、結局、名前を聞き出すことはできなかったという。

また、松井田町の中学では「万引きがあった場合は保護者を呼び出してほしい」と依頼する電話があったが、学校側は「不審に感じ、相手方に再度確認をしてほしい」と注意を呼びかけている。

市内には、二十五の自治会や婦人会などがあり、うち八割で防犯組織が結成されている。こうした市内の学校を狙った犯行だとすれば、「困ったことだ」と表情を曇らせる。

また、松井田町の中学では「生徒指導が重複する傾向にあり、一